ちぎり絵

3E－33 宇野りな

目次

00 はじめに

01 調査
- ちぎり絵とは
- 和紙の種類
- 和紙の歴史
- 著名人

02 手順

03 完成
- テーマ
- 感想

04 考察

05 まとめ

06 参考文献

07 付録

はじめに

元々イラストを描くことや何か作成することが好きだったことがこともあり、中学生最後の自由研究として自分1人でどれくらいのクオリティのものが作れるのか検証したいと思い、そこで美術の授業でもまだしていない「ちぎり絵」を100枚紙を使って作るというテーマを思いつきました。芸術に明確なゴールはありませんが、ここでは自分の作品だと胸を張って言えるようなものを作ることを目標としたいと思います。

01 調査

＊ちぎり絵とは

ちぎり絵は、ちぎった紙を台紙に貼って表現した作品のこと。貼り絵、ちぎり紙とも言う。主に和紙を使用し、手でちぎって台紙に貼って作成する。紙のちぎれた部分の質感などが独特な雰囲気を演出することが出来る。

＊和紙の種類

1.板締め紙（いたじめし）
濃淡がある紙。染めた時に出来る板の線が特徴。ちぎりやすく、どんな作品にも最適。茶系の紙は自然界の木、緑系の紙は、草・葉などに多く使われる。

2.雲竜紙（うんりゅうし）
和紙の中に太い繊維が入っていてちぎりにくい。ちぎった時に毛羽立ちが多い。光をだしたいところに光の表現、繊維だけを取りだして葉の葉脈に使われる。

3.揉紙（もみがみ）
裏面が凸凹している変化のある紙。光の反射角度では凸凹が効果的。紙が厚いのでバックに適している。遠近感をだす時に2、3枚とはがして使われる。

4.極薄紙（ごくうすし）
一般に典具紙とも言う。透かしてみると向こうが見える程、極端に薄い紙。無地やぼかし染がある。濃淡をつけたい時に使用される。重ね貼りをするのにも最適。

5.落水紙（らくすいし）
全体に穴があいている薄い紙。穴の大きさや、穴の形は色々ある。白の紙は雪の表現に使い、色や柄ものは、人物の服装や動物の体に使われる。

＊和紙の歴史

日本書紀の記載によるとわが国に製紙法が伝えられたのは約１３００年前とのこと。奈良時代の黎明期を経て平安時代に入ると専門の工場から京の朝廷、役所へ届けられるまでになったが、厳しい自然条件下でのみ製造可能だった和紙は当然貴重品で、使用目的も限られたものだった。平安中期以降になると農民など庶民の間でも紙漉きが行なわれる様になり、やがて紙漉きに適した自然環境を持つ地方で製紙の地場産業化が進んでいった。江戸時代になると庶民の生活基盤も徐々に安定し、襖や障子用に新たな和紙の需要が出てきたことも手伝って各藩の製紙産業保護政策が促進されました。楮（こうぞ）、三椏（みつまた）、雁皮（がんぴ）などが原生し、清流に恵まれるなど限られた条件下でのみ漉くことができる和紙は鳥取県の因州和紙を始め、福井県の越前和紙、島根県の石川和紙など今も風土と技術を兼ね備えた特定の地域の伝統産業として引き継がれている。

＊著名人

ちぎり絵の作家として有名な山下清は緻密で色鮮やかな作風のちぎり絵で名を馳せ、「日本のゴッホ」と称された画家である。山下清の貼り絵は、鋭敏な観察眼と繊細な色彩感覚による緻密な描写が魅力のひとつ。3ミリ程度に手でちぎった色紙を細かく貼り込んでおり、まるで印象派の絵画のようなソフトな印象を与える。色紙のちぎり方を工夫し、絵筆で絵の具を塗り重ねたタッチに似た雰囲気を出している技術もすばらしい。少しずつ違う色の色紙を重ねて貼る技法は、陰影を出し作品に立体感を与える。そして山下清の独自の技法として注目されるのは、紙を細くなるように捻った「こより」である。紙をちぎって貼り付けた平面的な表現とあわせて「こより」の手法を駆使することで、作品に厚みが増し立体感が増す。こよりを使うことによって、臨場感ある表現が可能になる。

02 手順

1.デザインを考える。

私はipadのAdobe Frescoというアプリを使いました。私は作っている中で色々変えていくタイプなので、ほぼラフ画ですが、はっきりと完成のイメージがある方は書き込んでもいいと思います。あと、もっと完成のイメージを明確にしたい方は色を簡単に塗るのもありです。

2.台紙や紙を買い揃える。

台紙は大体の大きさなら100均で揃います。私は求めていたサイズの紙がなかったのですが、ダイソーで偶然見つけたカラーボードというものを使いました。正直、台紙はのりで紙を貼れるものならなんでもいいと思います。

今回私はビビットカラーで作りたかったので折り紙を使用しました。作品のイメージに合わせて選ぶことが大事です。

3.キャンパスに下書きをする。

紙を上から貼っていくので完成の時は見えないので下書きは雑でも大丈夫です。台紙に合わせて見えやすい色でしてください。私は、輪郭、顔のパーツ、手などはしっかり描き、髪の毛はまだ決めていなかったので描きませんでした。貼っていく上で思いついたものを作っていくのも楽しいと思います。

4.紙をちぎって貼っていく。

メインです。失敗しても重ねたらやり直せるので大胆にいきましょう。細かくちぎったり、大きくちぎったり、重ねてグラデーションを作ることもできます。色々試してバランスよく取り入れていくのがいいと思います。

※完成までの過程は付録に載せています。

03 完成

＊テーマについて

「思春期」をテーマに作成しました。中高生の皆さん、環境が瞬く間に変わっていって、将来への不安がある中、学校、習い事、塾、課題、趣味、毎日色んなことに追われていると思います。それでも頑張って生きている、そんな私達を表現しました。色々な感情が混ざりあった表情や、学校への憂鬱な気持ちを表した崩壊しかけているセーラ服、そして背景のゼンタングルアートで将来への希望を演出しました。

＊結果

何回か目や髪の色を変更したので、折り紙を40枚ほど使い、合計30時間くらいで完成しました。ちぎり絵は重ねて重ねて作るので折り紙も大量に使いますし、時間もかかるので大変でした。結果的に、あんまり納得いく出来ではなかったです。途中作業が雑になり大きくちぎってしまっていたり、肌のグラデーションがうまくいってなかったりで、まだまだだなと思いました。

04 考察

今回の作成にあたって私は主に折り紙を使用しました。折り紙は厚いので透けにくく、重ねても色が変わらないのでグラデーションがとても難しかったです。そして、紙を小さくちぎった時にのりをつけるのがとても難しかったので、何か工夫する必要があるなと思いました。折り紙は発色がいいので服や髪の毛に使うのがいいなと思いました。和紙は使ったことはないですが、調べた限り色をぼかすのに使うのが良さそうだなと思ったので、肌、ハイライト、影などに使うのがいいと思いました。
次回リベンジする際は折り紙と和紙をうまく使い分けて作品を作ってみたいと思います。

05 まとめ

初めてちぎり絵に挑戦してみて結果的には納得いかないところもありました。でもどんどん重ねることで厚みが出てくる楽しさを知れてよかったなと思います。ちぎり絵について調べていく中で和紙の種類がたくさんあることや、和紙の歴史、そしてちぎり絵で「日本のゴッホ」とまで呼ばれた偉大な方がいたことを知れてとても勉強になりました。芸術の中でも身近にあって誰でもできるちぎり絵は簡単なようで奥が深いということを身をもって知れました。私も山下清さんくらい細かく細かく紙を扱えるようになりたいです。もっともっと勉強して、練習したいと思います。

06 参考文献

Wikipedia.「ちぎり絵」
https://ja.m.wikipedia.org/wiki/ちぎり絵

愛知県共済.「ちぎり絵に使用する主な和紙」
https://www.aichi-kyosai.or.jp/service/culture/internet/hobby/tear_pict/tear_pict_1/post_215.html

一般社団法人日本ちぎり絵文化協会.「和紙ちぎり絵について」「和紙の歴史」
http://www.livelife-jp.com/chigirie/

This is Media.「山下清とは？日本のゴッホと呼ばれた画家の人生や代表作品を解説！」
https://media.thisisgallery.com/20222896

07 付録